

建学の精神 『質実剛健、尚学共助の校風と知徳体の調和のとれた学びの場を目指す』(昭和57年11月1日)	
校 是 誠 実 意 欲 創 造	
教 育 目 標	重 点 目 標
1. 真理を探究し、平和を尊び、自主的に行動する力を身につける。	1. 学力の充実を図り、日々基礎・基本を重視して思考・判断・創造力を育み、生徒の希望する進路実現を目指す。
2. 身心を錬磨し、不屈の精神を養う。	2. 生徒一人ひとりが意欲を持って諸活動に取り組み、達成感を得ることのできる学校づくりを目指す。
3. 勉学に励み、品性を陶冶する。	3. PTA(保護者)・地域(同窓会)・教員との三者の連携、協働により生徒を育み、開かれた学校づくりを目指す。
	4. すべての生徒と職員が誠実な心を持って規範意識を高め、いじめ・体罰を許さない、安心安全な学校を創造する

評価項目	評価の観点	評価(%)※				現状・経過	成果・課題	改善策・向上策
		A	B	C	D			
学習の充実と進路実現 (重点目標1)	教育課程・シラバスに沿って、基礎基本の定着を図る授業展開ができたか。	14%	62%	14%	10%	教育課程およびシラバスに基づき、多様化する生徒に対応するため、各教科において指導方法や教材の工夫を重ねながら授業改善に取り組んだ。	各学年で基礎力の充実と学力向上を目指し、授業や補習を計画的に実施した。一方、学習習慣の確立には個人差があり、家庭学習を含めた継続的な支援が課題である。	実態に応じた授業運営と、家庭学習の習慣化につながる指導を工夫し、学習成果を実感できる取り組みを継続して進めていくことで、基礎力の一層の向上を図る。
	生徒に学ぶ理由を考えさせ、ICT機器等の活用などにより、意欲を喚起し、学習習慣を身につける指導を行うことができたか。	19%	57%	19%	5%	生徒が意欲的に授業に取り組むために、ICT機器等を活用した授業など、さらに工夫されている。また、進路等を意識させることで学習習慣を身につけさせる指導を行った。	ICT等の活用がより生徒に浸透し、授業ノードや学習課題のチェックやフィードバックが実施される一方で、進路意識の差の大きい生徒が、学習習慣は生徒によって大きく差がある。	学ぶ理由を教師が押し付けられるのではなく、生徒の自発的な学習意欲を喚起する方策が求められる。そのためにR8年度より実施の「空コマ」が有効に機能するシステムの構築も突破口のひとつと考える。
	進路実現のための適切な情報提供と、個々の生徒の希望に添った進路指導ができたか。	29%	62%	9%	0%	学年・担任または生徒個人に対して時宜に応じて進路情報を提供した。可能な限り学校説明会等に参加し、情報収集に努めるとともに、内容によっては上級学校へ情報提供を依頼した。高大連携を推進し、新規に分野別学習(2学年)、看護・福祉学習(1学年)を実施。就職指導においては「ハローワーク・携つなど」と連携を密にし、企業から得られた情報とともに提供してきた。担任・係による個人面談等を通じ、個々に具体的な指導を行った。	卒業予定者は、進学・就職とも概ね希望する進路実現ができた。一方で進路実現をしよとする意識の低い生徒の指導が課題である。また、上級学校において多様な入試形態や分野(学部・専攻・コース)の細分化や改革が進行中であり、情報量に対して時間的ゆとりがない。近隣大学との高大連携を進めることができた。	高大連携を一層推進し、情報の共有を図り、進路指導に生かす。生徒の希望進路(分野)に応じた上級学校見学会・出前授業、企業見学・体験を積極的に行うとともに、生徒・保護者自ら主体的に進路情報を得ていく指導を行う。
自主活動の活性化 (重点目標2)	蓑笠祭・クラスマッチなどの学校行事を充実したものにできたか。	33%	52%	15%	0%	・蓑笠祭・チーム「One for all All for one」来場者1018名、パサー企画に合わせて、塩尻市と連携してフットラグを行った。・クラスマッチ:体育委員会を中心に関連委員会と協力することによって、充実したものにできた。また、春にかけては、フットボールを導入、秋については、百人一首を導入して充実した開催となった。	・準備期間中の片付け・清掃、文化祭後の片付け・清掃の徹底ができたことと感じる。・クラスマッチは、生徒の安全に配慮して実施したが、危険を伴う接触プレーも見られた。おおよそ良好な成果を上げることができたと思う。	・完成度の高い生徒会活動にするために他校の実践など多くの情報を入しよとする機運を高めていく必要がある。・クラスマッチの種目を工夫して、危険度を下げた取り組みを行いたい。
	生徒会活動・クラブ活動を活性化させ、田川高校全体の活力を高めることができたか。	14%	62%	24%	0%	・今年度は、新たな挑戦を多く取り入れ、生徒会活動が活性化し、高学年が行う合同高校説明会・高学年による県立高校の魅力化プロジェクト(花のほしプロジェクト)など、おもしろい放送を活用して、部活動の社行を行った。警察署と協力して、交通安全、防犯などの啓発活動を行った。	・生徒会役員は、他校生との交流を持つことができて、多くの良い刺激を受けた。その経験を校内での生徒会活動につなげていこうとしている。今年度は、ボランティア活動について、一般員に積極的に呼びかけを行い、生徒会役員以外からの参加者が多く集まった。	・生徒会全員の意識を高めるための広報・宣伝活動の充実が必要である。・定例委員会を行っているが、会の準備・進行に不慣れな生徒が多く、なかなか完成度が上げられない。
	清掃活動にきちんと取り組むよう指導ができたか。	29%	43%	24%	4%	・毎日、意欲的に取り組むことができる生徒がいる一方で、消極的な生徒もいる。・美化が大作戦についても、教務・PTA係と協力し、多数の生徒が参加した。	・ほとんどの生徒はきちんと清掃に取り組んでいる。また、ゴミの分別や清掃用品の扱いなども良くできている。より積極的に取り組めるよう、さらに呼びかけをしよう。	・大掃除やワックスがけの際の重点項目の設定、ゴミの減量化の呼びかけ、生徒の美化意識向上のための取り組みなど、工夫していきたい。
開かれた学校づくり (重点目標3)	PTA・同窓会と連携して、魅力のある、地域から信頼される学校づくりを進めることができたか。	19%	33%	29%	19%	PTA会則第2章組織第4条の「正会員」の項の文言(保護者会)の部分で「保護者」に改めた。また、昨年度決定の活動方針に従い、PTA総会は平日に実施、理事会を減らすなど、負担なく継続しているPTA活動を実践した。	PTA総会を昨年度と同様に平日に開催したが、参加率については昨年度並みであった。しかし、春秋の授業参観、学年・学級PTAへの参加率は、高いとは言えなかった。	PTA活動の負担は軽減したが、保護者の来校を促す工夫が求められる。また、PTAへの加入は任意であることを明示しつつも会員数を確保する策について検討していく必要がある。
	webページ・各種通信・公開授業・中学生体験入学など様々な機会をとらえ、田川高校を発信することができたか。	24%	52%	14%	10%	計画通り7月と11月に中学生体験入学を開催した。参加者数はほぼ昨年と同水準で特に11月実施の体験入学では前年比25%増となり、内容や時期については概ね好評であった。Webページは、支援員の協力を得て見やすく、迅速に情報を伝えた。進路範囲と比べられる中学校を訪問し本校の広報を行い、「蓑笠通信」も発行、各中学に本校の様子を伝えることができた。公開授業については5月と10月の2度実施し、保護者の参加がみられた。	昨年同様、中学生体験入学では、授業及びクラブ体験ともに参加者からは好評であった。また、本校での学びについて時間をかけ説明することができた。日頃の田川高校の活動をどのようなアピールできているのかという点も課題であるが、Webページを積極的に活用していきたい。	新校開校時期が確定したことをうけ、授業・クラブ・生徒会活動など本校の魅力や今後のビジョンをより一層発信していく必要がある。webページや各メディアの取材結果とリンクさせながら、クラブ活動や行事などをタイムリーに更新していきたい。

規範意識と 自他を敬愛 する心 (重点目標4)	遅刻指導など、基本的な生活習慣を構築させる指導ができたか。	5% ↓	29% ↓	48% ↑	18% ↑	1分でも遅刻したら20分ぎりぎりまで授業に出ない」「とりあえず授業に間に合えば出席になり、出席確認後に廊下に出る授業準備すべし」「休み時間は遊び、授業が始まってからトイレに行けば良い」と考える生徒が一定数存在する。	見回りをすることによって、声をかける頻度は増えているが、トイレなど目につかない場所で時間を過ごす生徒も一定数存在する。	特別な理由がない場合、授業の遅刻を欠課扱いとする。授業開始のチャイム後の準備やトイレは遅刻扱いとすることを徹底する。など、管理職が許せば。
	交通安全・頭髪指導など、モラル・規範意識の向上を図る指導ができたか。	10% ↑	43% ↓	33% ↓	14% ↑	したかしていないかでは「した」。頭髪については継続して行い、一定の改善は見られるが、交通安全については、ヘルメット、鍵かけ、交通マナーのどれをとっても改善されているという実感はない。	頭髪に関しては、流れを理解し、反発をする生徒は減っている実感がある。ただし、一部生徒に押しで言えば一時的な改善は見られても、繰り返し違反することから、意識の変革はないと思われる。	公平性の観点から言えば、決められた期日の徹底、できないのであれば、ルールの徹底。
	生徒の人権意識を高め、いじめ・暴力のない学校づくりができたか。	14% ↓	67% ↑	10% ↓	9% ↑	取り組みは行っているが、現状いじめ・暴力のない学校づくりはできていない。	「死ね」「殺す」が友達同士の日常会話で出てくる。粗い関係でさえ使うので、知らない人間に対して感情が逆なでされれば容易に使うし、教職員相手でも使用される場合がある。当然指導の対象だが、叱られるからやめるだけであり、いじめやめめるわけではない。	耳にするたびに注意し、やめさせることが必要で、さらに言えば、時間をかけて理解させることが必要だが、時間をかけて話をするような余裕は時間的にも人員的にも存在しない。
	生徒個々の内面に寄り添って相談にのり、生徒の心身の健康を保つための支援ができたか。	24% ↓	67% ↑	9% ↓	0% ↓	人間関係のつまずきが原因で学校生活が苦しく感じる生徒が増えている。SNSの多用や人間関係構築の経験不足などが元で起きるトラブルに対処することがなかなかできず、さらに相談することもできず困難を抱え込んでしまふ事例が多い。各学年や保健室、多方面との情報共有を行い、配慮や支援を行うことを検討していく必要がある。	SCやSSWにつなげる事業以外にサボマネへの依頼も増えた。ただ、高校生に対するSSTがどこまで間に合つか効果はなかなか難しい場合もある。また、保護者との連携も模索したいところではあるが対応すべき生徒の人数と職員が見合わないという困難もある。さらに、現在表面化している困難が、一つの原因にとどまらない場合も多々あり、多方面からの情報入手と共有が必要。	当事者と係る場面はたくさんある。担任、教科担当者、クラブ指導、保健室、図書室等々キャッチした情報や様子迅速に共有し、専門機関や家庭等との連携を行いながら寄り添って行くことが必要。校内研修においても、多くの参加を促し、校内の状態にあった知識の習得、スキル向上を図り、チームで対応できる体制を強化させていく。

【〔達成度〕 A:ほぼ目標を達成した B:どちらかといえば目標を達成した C:どちらかといえば達成できなかった D:達成できなかった】
矢印 ↑ ↓ は、昨年度の評価との比較

※ 評価は全職員による